

●地区別計画推進活動報告（社会福祉大会第2部）

平成28年3月2日（水）、第34回緑区社会福祉大会の第2部において、地区別計画推進活動報告として、事例発表「身近な地域でつながり・ささえあいを育むために」が開催されました。

この事例発表は、平成23年度からスタートした第2期緑区地域福祉保健計画「みどりのわ・ささえ愛プラン」のうち、区内11地区それぞれで展開されている「地区別計画」の具体的な推進状況を広く地域の方々にお伝えするとともに、今後の各地区での更なる展開のきっかけとしていただくことを目的に、計画期間である平成23～27年度の間、毎年開催をしてきました。

前大会より緑区民文化センター（みどりアートパーク）に会場を移し、当日は天候にも恵まれ、和やかな雰囲気の中、日頃から地域で福祉・保健などの活動で活躍されているの方々を中心に、317名の皆さまにご参加いただきました。

第1部の式典では、緑区において永年にわたり社会福祉活動に携わってこられた多くの団体や個人の方の功績に感謝し、地域福祉の一層の充実を図ることを目的に式典（表彰）が行われました。



<式典（表彰）の様子>

そして休憩を挟み、第2部がスタートしました。

第2部では、「身近な地域でつながり・ささえあいを育むために」をテーマに、竹山地区と新治西部地区、2地区の取組みの発表が行われました。進行役は、緑区福祉保健センター宮口廣隆センター長が務めました。

発表では、それぞれの地区の推進委員より、地区の概要・特徴・策定経過・取組内容がパワーポイントを用いて、具体的に、わかりやすく説明されました。また、4月から始まる第3期福祉保健計画の概要やポイントについて説明しました。

2地区の事例発表の他に、会場1階ホワイエにおいて、11地区の地区別計画における推進状況についてのパネルと通信の展示が行われ、来場者に各地区の取組みが広く紹介されました。また、今年度は、区内の障がい者施設・作業所の製品販売も行われました。

<下：緑区社会福祉大会チラシ>

第34回 緑区社会福祉大会
 平成28年3月2日(水)午後1時00分から3時30分

開催：午後0時00分 定員：334名
 【第一部】式典（午後1時00分～1時50分）
 社会福祉功労者・金品預託者の表彰
 区内の社会福祉活動に貢献した個人・団体を表彰します。

【第二部】事例発表（午後2時00分～3時30分）
 「身近な地域でつながり・ささえあいを育むために」
 第2期緑区地域福祉保健計画「みどりのわ・ささえ愛プラン」の推進状況を広く地域の方々にお伝えすることを目的に、具体的な推進事例を発表していただきます。

【事例発表地区】
 ■竹山地区の取組み……竹山地区別計画推進策定委員会
 ■新治西部地区の取組み……新治西部地区別計画推進策定委員会
 コーディネーター：みどりのわ・ささえ愛プラン推進策定委員会 部長 村井 浩一 氏
 （田園調布学園大学 人間福祉学部 教授）

※事前申込不要、参加費無料、手紙送付可。
 ※入場券が定員を超過する場合は、1階ホワイエにてご購入いただく場合がございます。
 ◎ 当日1階ホワイエにて、「みどりのわ・ささえ愛プラン」における各地区の取組紹介のパネルを展示しております。

【会場】みどりアートパーク（緑区民文化センター）
 住 所：緑区奥津田2-1-3（裏面参照）
 アクセス：JR横浜線・東急田園都市線・こどもの国線奥津田駅北口から徒歩4分

【問合せ先】
 緑区社会福祉協議会 電話：931-2478 FAX：934-4355
 緑区福祉保健センター福祉保健課事業企画担当
 電話：930-2304 FAX：930-2355

<会場内の様子（第二部）>



第2部での2地区の発表内容は次の通りです。

竹山地区では、「ボランティア参加等の仕組みを整える」「世代間・活動団体間の交流を進める」「知りたい情報を知らせる工夫に取り組む」の3つを目標に、取組みが進められてきました。これらを目標に「普段からの『ささえ愛』」と「緊急時の『ささえ愛』」の取組を検討してきました。

「普段からの『ささえ愛』」としては、竹山地区にはボランティアセンターがあり、近隣同士の助け合い活動をしています。また、たくさんの人集える場として、空き店舗を活用した「ふれあいさろん竹多久」を開所しました。その他、季節行事や竹山池を活用した取組みなども盛んに行われており、高齢者だけではなく世代交流が出来る場を多く作っています。

また、「緊急時の『ささえ愛』」としては、日頃より自治会広報を強化し、竹山地区独自に防災ブックを作成し全戸配布するなど、情報がわかりやすくなる仕組みづくりに取組んでいます。

今後に向けて、竹山地区では、これまでの取組を継続して着実に進めるとともに、より多世代の方々が「つながり」を深め、知りたい情報がわかりやすくなるよう進めていきます。



＜竹山地区の（左）吉川氏、（中）町田氏、（右）鈴木氏＞

新治西部地区では、「地域の中での孤立化をなくし、みんなの顔の見える環境を目指す」「地域情報をより多くの人に届けるため自治会加入を促進する」の2つを目標に、取組が進められてきました。

「みんなの顔の見える環境を目指す」ために、地域と学校・児童の交流や、連自治会の3大行事の開催を通して、住民同士の顔の見える関係づくりを進めています。また、連合だけではなく、単位自治会における行事も盛んにおこなわれています。共通の行事を単位自治会同士で繋がることで、参加しやすい街づくりをしています。

さらに、「自治会加入を促進する」ために、自治会のホームページを作成し、地域における各会情報を集約する仕組みをつくり、タイムリーに届けることで、自治会活動を伝えている自治会もあります。

今後も、既存の活動を継続し、地域での「つながり」を深めるとともに、みんなの顔が見える「元気な街」を目指していきます。

地区発表終了後、宮口センター長より発表者に対して、取組の中で苦労したこと、そのなかでの手応え、地区別計画として取り組んだことで良かった点や難しかった点、取り組み後の変化などについて、質問が出されました。発表・質疑応答を通じて、発表者の取組に対する想いや、各地区の取組の工夫などを、参加者と共有することができました。

4月からの第3期地域福祉保健計画について、福祉保健センター福祉保健課青木課長と緑区社会福祉協議会渡部事務局次長から、地域に根差した計画がより「広がり」をもち、もっと多く方に知ってもらえるよう、広報イベントやPRにも力を入れていきたいと説明があり、第2部が終了しました。



＜新治西部地区の（左）田中氏、（右）松浦氏＞



＜宮口センター長（進行役）＞



＜渡部事務局次長（左）、青木課長（右）＞